

●はじめに

・本作品はフィクションであり、実在の人物、思想、団体いかなるものとも無関係です。
また、本作品内の描写の全ては、現実での行為を推奨するものではありません。

・無断転載、複製、複写、インターネット上への掲載などを一切禁じます。

2019/8/23 いと けいと

第三次世界大戦の過激化に伴う男性の重用により、過去の男女平等などという**陳腐**な世論は覆された。

'外'と同じように、この軍事基地においても男性に逆らう女性には厳しい**利用**処罰を与えられる。

軍人たちの性処理用には売春婦たちが出入りするが、それだけでは飽き足らない特殊嗜好の軍人たちにより、'地下'には拷問部屋が作られた。それに興味を示した基地内の研究職たちが参入し、出産用奴隷の開発や性器改造などが行われていった。

今や地下の性処理施設は、基地の中でれっきとした立ち位置を確立している。

収容されている奴隷たちには1体ずつ基本情報や改造記録の資料が作られ、管理される。

以下は、カテゴリ「性処理用奴隷」のデータの一部である。



矢月啓(やづき けい)

基本情報 : S121345_B

162cm/54kg

B80-W56-H75

年齢 : 22歳

もともと高学歴のエリートで、戦争により奴隷として徴収されるまでは有名企業に努めていた。

空いた時間には年下の奴隷をよく気にかけており、面倒見の良い性格である。

基本的には大人しく施設職員に従うが、たびたび反体制的な言動も見られるため、取り扱いに留意。

XXXX年XX月XX日：追記

XX月XX日の予算委員会への接待に選出、××氏へと割当。

年齢的には××氏の好みを外れるようだが、その外見を気に入られたようだ。



鴻野純(こうのはすみ)

基本情報：S12181_A

159cm/50kg

B97-W54-H82

年齢:19歳

人当たりがよく、職員に対しても雑談をもちかけるような性格。

もともとスラムの風俗勤務であり、不安定な生活に辟易していたため「中」での生活をそれほど抵抗なく受け入れたらしい。

性欲旺盛で、物のように扱われる日常だとしてもこの奴隷にとってはさほど苦ではないようだ。

「外」から徴収してきた奴隷の中では非常に環境に適応している珍しい奴隷である。

XXXX年XX月XX日：追記
XX月XX日の予算委員会への接待に選出、××氏へと割当。

容姿・性格と淫乱さのギャップが気に入ったらしく、直接の指名。

古い倫理観を持つS121345_B：矢月啓との緩衝材としての働きも期待できる。



リン

基本情報：S100121_A

138cm/31kg

B50-W43-H55

年齢:-検閲済-歳

施設内で出生し、「中」で育つ。

日常的に男の相手をして
いるため、他の施設内出身
者と同じように男性慣れ
している。

基本的に人見知りしない
性格であり、年配男性にも
怖がらずよく懐く。

反面礼儀に関してはルー
ズである。

利用者のことは敬称で・敬
称をつけて呼ぶように教
育しているが、

甘えたがって「おじちゃん
」などと呼んでしまう癖が
ある。

そのため紹介の際には利
用者の好みをよく把握す
ること。

XXXX年XX月XX日：追記
XX月XX日の予算委員会へ
の接待に選出、××氏へと
割当。

年齢・性格ともに幼女趣味
の××氏に適當であると
判断。



予算を増やすため、委員会の幹部たちへの
接待をセッティング。
接待用の奴隷は、カテゴリーII（性処理用奴隷）
から選出。
追加の健診を踏まえて、幹部たちへ
それぞれ3体ずつほど充てがうこととする。



接待当日。
食事の席で、教育した性処理用奴隷に
接客させる。
それぞれの嗜好に沿うように奴隷を
分配し、個室で性的な接待をさせる。



予算委員会委員長
××××の客室記録。

An anime-style illustration of three young women in swimsuits. On the left, a girl with long dark purple hair and blue eyes is partially visible. In the center, a girl with brown hair and orange eyes, wearing a white swimsuit with a blue flower accessory, is smiling. On the right, a smaller girl with short black hair and orange eyes, wearing a pink swimsuit with a black bikini top and a small pink flower on her hip, is looking up at the other two. They are in a room with wooden paneling.

羽純「今夜は私達がお相手させていただきますね♥」
リン「よろしくね!…じゃなくて、よろしくおねがい
しまあす!」
啓「よろしくおねがいたします…」
××「おお、おお、宴会のときの
べっぴんさんたちじゃないか!」
いやあ、やはりここの職員たちは分かってるねえ。」



××は口元を歪ませ、よく通る…
というよりは無粋とも言える大声で
奴隷たちを迎える。
口角は上がっているはずなのに
目は異様にギラつき、にこやかな印象が無い。
典型的な、性根の腐った人間の表情だ。

羽純「ほら、ベッドに：××様はどうぞ楽に。
私たちに任せくださいね♥」





啓「ん…ちゅ、ふ…う…」
リン「はあ、あん♡」

羽純「ふふ…××様、耳きもちいですか…？」
ほら、唇も…んっ…」



啓「……！××様、わ、私ともキ、キスしてください……
ほらリン、あなたはいいいから……」
リン「ええっ！」

××「ふふ、啓ちゃんはずいぶん
積極的だねえ」
羽純「……」

啓「ん…ふっ…ちゅ…」

啓は嫌悪感を隠しきれない笑顔で
××の分厚く突き出た唇を必死に舐めとる。
啓の口腔に舌が無遠慮に侵入し犯していく。
ぬるぬるとした感触と脳まで犯される錯覚を他所に、
下からリンの弾むような声が響く。



リン「ふふ、じゃあリンはおじちゃんのおちんちんを舐めちゃいますねっ♡」

啓「ふ、う…えっ…そんなことあなたはしなくていいっ!」

あーん♡



××「なんだね、急に。反抗的じゃないか。」
羽純「申し訳ございません、××様。この子真面目なんです。」
××「ああ…なるほど。若いのに古風なことだ。そんなことでは
時代に取り残されてしまおうよ？ハッハッハ！」

羽純「ふふ、××様が優しい人で良かった。」
啓「う…クツ…」
リン「ねえ、なに難しいお話してるの？
もっと気持ちいいことしたい〜！」
羽純「そうね、リン…」

羽純「ねえ、××様。
私、ひとつ思いついたことがあるんですけど…」

××「んん？なにかな？」



クス…

羽純「啓ちゃんに気持ちいいこと、
覚えさせてあげませんか？」
啓「なっ!?!? 羽純、何言って…」

羽純「彼女経験があまり無いみたいだから…
身体が覚えれば早いと思うんです。」



リン「それすっごく良いっ！」
啓ちゃんが乱れるところ見たーい♥
ね、ね、おじちゃんもみたいよねっ」

××「おお、おお、いいねえ。じゃあ、今晚は
啓ちゃんであげよう」
啓「ヒッ…リ、リンまで…」

羽純「大丈夫、堕ちちゃえばあとは
気持ちいいだけだから…」
啓「いい、いや…！」



××「そうだ、今日は啓ちゃんは
ローション禁止にしよう。
本気汁まみれにして犯してあげようじゃないか」

啓「…っそんな、
止めてください…っ!!」

グッ
グッ

グッ



××「おい、勘違いすんじゃないぞ。
お前らは人間じゃ無い。
拒否権なんか無いんだからな？」
啓「ひうつ……は、はい……」

なおも首を振ろうとする啓に、××は凄んだ声を出す。
ニタニタと歪んでいた口角も脱力する。
立場の違いを分からせようという男の思惑通り、
啓は必死で従順な態度を見せる。
連れてこられたばかりの時に受けた懲罰……
3日間睡眠を与えられず、あらゆる生理的苦痛を
叩き込まれたことが脳裏によぎったのだろう。

An anime-style illustration of three young women in a bath. The woman in the center has long brown hair and a blue bow, looking slightly down with a sad expression. The woman on the left has short dark hair and is smiling broadly. The woman on the right has long dark hair and is looking towards the center woman with a gentle smile. They are all unclothed, and the scene is set in a warm, bath-like environment.

××「そうそう、そうやって言うことを聞いていけば
良いんだ。じゃあ、すっかり濡らしてやらないとなあ。
ほら、何かいうことは？」

啓「ありがとっ…ございます…
申し訳ございませんでした…っ」
リン「ふふ、啓ちゃんごめんなさいできて
えらいの！
それじゃあリンは…はむっ！」



啓「ひあああつ………!!」
リン「ん…む、おっぱい舐めてあげるね…
ちゅ、ぺろっ…」
♡

リンは普段の口数の多さが嘘のように、
夢中になつて啓の乳首を舐めはじめた。
薄い布越しに体温の高い舌でちろちろと
刺激され、啓の唇から抑えきれない
声が漏れる。

ぐす

啓「…う、あ…おねが、リン…
そんなことしないで…」
リン「ん、なんでえ？はむ…
けいちゃんのおっぱい…ん、こんなにふわふわで…
おいしいのに」

An anime-style illustration of three young women. The woman in the center has long brown hair and is looking upwards with a blushing, closed-mouth expression. She is wearing a light-colored, possibly wet, strapless top. To her left, a woman with short black hair and orange eyes is looking at her. To her right, a woman with long dark blue hair is looking at her. All three appear to be in a state of arousal or intimacy. The background is a soft, warm yellow.

リン「…きもちよくない？」
啓「ちがつ…そういうことじゃな…ひうつ…」
♥

××「うんうん、健気でかわいい子たち
じゃないか。
どれ、私も味見させてくれ…」

××「身体は正直ってこういうことを
言うんだねえ。あつという間におまんこ
ぐちゃぐちゃだよ。」

…？！

！

啓「…！う…」
羽純「ほら啓、どこに当たってるか言って」

啓「あ…く…クリトリス…
ぐりぐり、されて、る…あ♥」
リン「いいなあ啓ちゃん、気持ちよさそう♥」
啓「う…あ…」

ちゅわん



クリトリスと乳首を責める動きが次第に早くなり、くすぐるような刺激から確実に絶頂に導くための刺激へと変わっていく。

「あゝ…っ…ん、ん…！」
 ××「ほら、なんの抵抗もなく指が入っちゃったよ。君、むつつりだねえ。実はドMとか？」
 啓「ちがいま、あ、あ…っ！」

はっ
 はっ
 ガッ
 ハッ

はっ

はっ

ガクッ

ハッ

ん

クリトリスと乳首を責める動きが次第に早くなり、くすぐるような刺激から確実に絶頂に導くための刺激へと変わっていく。

啓「あ〜…っ…ん…ん…！」
××「ほら、なんの抵抗もなく指が入っちゃったよ。
君、むつつりだねえ。実はドMとか？」
啓「ちがいま、あ、あ…っ！」

ハッ

クリトリスと乳首を責める動きが次第に早くなり、くすぐるような刺激から確実に絶頂に導くための刺激へと変わっていく。

はっ

はっ

「あゝ…っ…ん…ん…!」
 ××「ほら、なんの抵抗もなく指が入っちゃったよ。君、むつつりだねえ。実はドMとか?」
 啓「ちがいま、あ、あ…っ!」

ハッ

ガッ



お
ま

?

啓「——く、あ、っ!!」

啓「あっ、も、だめ——」

ガ
ク
ッ
!!

ガ
ク
ッ

バ
ッ

バ
ッ



リン「啓ちゃん、イっちゃったね♡」

トロ...



リン「すごい、えっち…んあ…♥」

羽純「まだまだ物足りなさそうね…」
啓「だ…め…」
羽純「もっといじめてあげましょうね♪」
啓「あ…ああ…！」

—40分後。

××「連続でイって痙攣しっぱなしじゃないか。おまんこも物欲しそうにピクピクさせてるねえ？」

羽純「あら、またイっちゃったわね…
これで31…いえ、32回目だったかしら？」



5/11/11

Hi

ガ
ー

ガッ



2

2

4

啓「はーっ、はーっ、あーっ……っ!!
羽純「あら、酸欠になって答えられないみたい。かわいい♥」

―啓は疲弊し言葉を紡ぐだけの余裕はなかった。
それでも外陰部への刺激はどこか物足りない
ようで、切なげな声を上げている。

××「ああ、もうたまらん！
そろそろ挿れさせてもらおうぞ！」

ひゅっ!?!

啓「…あっ!?!まだ、イってる…!!」

グ
イッ!!

ど
ん

しゃ
ー



啓「あああああ——…っっ!？」

あ
あ
あ

ズ
ズ
ズ

あ

グ
グ
グ

ば
ん
ん

あ

××「挿れただけでイッたのか…本当にスケベだなあ…
くっ、膣内が痙攣しっぱなしだ…！」
啓「あ…あ、まだ動かさないで…——っっっ!!」

か

は
し

か
く
ん

はし

はっ

ズルル...

ズルル...

う...

ま...

おねが...

啓「はあああつ.....んんんっ...」

ザッ

あ...なま...

カウ...

ズルル...



××「クク…声も出ないかね？
このまま動かすぞ…！」

ガクガク！
バグッ！
バグッ！
バグッ！

バグッ！
バグッ！
バグッ！

バグッ！
バグッ！
バグッ！

ガクガク！

啓「まっ…て、待って、しきゅゴリって、しきゅう、
ゴリゴリしてりゅあら、あ、あつ、ああ〜っ!!」

羽純「大丈夫よ、だって今とっても
気持ちいでしょう?」
啓「あ、ああ、あ…きもちいいい、
ぎもちいい…っ!!」

あは♡

たふや

あ

ドス

あ

あ

パン

パン

パン

パン

パン

パン

パン

パン



××「膣^な内^かが…うねって…!!
一旦このまま射精^だすぞ!!」

リン「すごい、啓ちゃん聞いたことない
声あげてるよお…」
啓「うああああっ!!ちくびだめえっ!
いまだめえっ!!」

啓「あああああつっ……!!
でてる……なにかあ……」

××「うっ……!!」

はーっ

て

イ

はーっ

ドクン♡

ドクン♡

ドクン♡

ドクン♡

ドクン♡

ドクン♡

ドクン……

イ

イ

××「あ、あ…」





羽純「うふふ…じゃあ次は
これ挿れちゃいましょうか♥」

啓「え、…な…なに…それ…」



あは♡

羽純「実は準備してたの。啓ちゃんを
鳴かせたくって…♪」
啓「ひ、ひ…や…やあ…っ!!」

リン「わあ〜! おっきくてすごーい! ♡」
××「おおっ! これは楽しめそうじゃないか!」
羽純「でしよう?」

言いながら、羽純はローションを手に取り
啓のアナルに塗り込めていく。

羽純「ふふ…おまんこ汁溢れすぎて
ほんとにローションいらすね？」
啓「ま、って…まっってえ…っ」

ワズワズ…

はっ

ゼッ

ゼッ

ゼッ

はっ

ビクッ

ゴッ

トロッ

カクッ

かき

××「ごらごら、啓ちゃん。
よそ見しちゃだめじゃないか」

くにっ

くっくっ

啓「あっ……!!
ぐりどりしゅ……ごりってしちゃだめ……え!!

啓「あつ、そこだめ、クリトリスだめえあああああ
あああっっ!!!」

羽純「あら…また潮吹きしちゃってる。
…さ、このくらいでいいかしら。そろそろ挿れるわよ…」





啓「――あ、あ――あ、はいつて、ゝゝゝっ!!」

あ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

××「ああ…エッチな啓ちゃん見てたらまた勃つてきちゃったよ、ほら。
このまま挿れさせてもらおう、よー!」

あ

あ

ズンズン



啓「あ、あ、あ、!!だめ、だめだめだめ、これだめ、
これらめえっ!!!」
リン「だめなの?こんなに気持ちよさそうにして
るのに?」

羽純「大丈夫よリン。啓ちゃんはお尻とおまんこ同時に
挿れるの初めてでパニックになっちゃってるだけよ。」
啓「あ、ああ:あ、あああ」

バ
ン



××「物欲しそうに口を開けおって…」
啓「ふ、ん、ん…ん、あ、ん、ん、ん…む、」

ぬるる

ちゃ

べろ

羽純「ほら、啓。バイブがそろそろ
『奥』に当たりそうよ♥」
啓「え、」

啓「え、あ、ひう、あ…っ!？」



啓「あ、あああああゝゝつ!!!」



羽純「S字結腸（おく）に届いたみたいね♥
腸液撒き散らして喜んでるわ。」

あめあめあめ

びびあめ

あめあめ

××「うおっ！ははっ、これはすごいなあ…っ、
痙攣とバイブに押された刺激で
持っついていかれそうだ…！」

啓「ふーっ……ーっ……!!」
リン「あっはは♥啓ちゃん悲鳴あげてる！
うまく息できなくて苦しいよね？
気持ちよすぎて辛いんだあ♥」

羽純「それじゃあ、動かしてはじめてますね♪」

あ……

あ……

カキツ
カキツ

ぴしゃっ

カキツ

……

うっ……

カキツ

啓「あ、あ、あ…っ!!
けっちようこそすれりゅっ…
おぐやぶれりゅっ!!」

ズキッ

ズキッ

は

きゅん

か

ぎん

ズキッ

ズキッ

ズキッ

××「おほっ！まるで獣の鳴き声だな!!
もうたまらん、突く！突くっ!!」

かき

羽純「じゃあこっちも
ガンガン突いてあげないとね♥
××「ああ...いいぞ...っ!!
もう射精るっ! 射精るぞ!」



啓「あああああっっ…でてるうううっう!!」



羽純「痙攣でディルド押し出されちゃったわ…
ふふ、ぽっかり2つも穴開けて、パクパクさせて…やらしい♡」

あは

あ…

あ

あ…

ディルド♡

ディルド♡

啓「あ…あ…」

お…



リン「ねえ、次はリンが
気持ちよくしてあげたい！」
啓「…え？」

リン「ねえ、デイルド貸して、羽純！」
羽純「ふふ、いいですね、××様。」
××「ああ、もちろんだとも。
まだまだ物足りんわい！」
啓「ああ、あ、あ…」



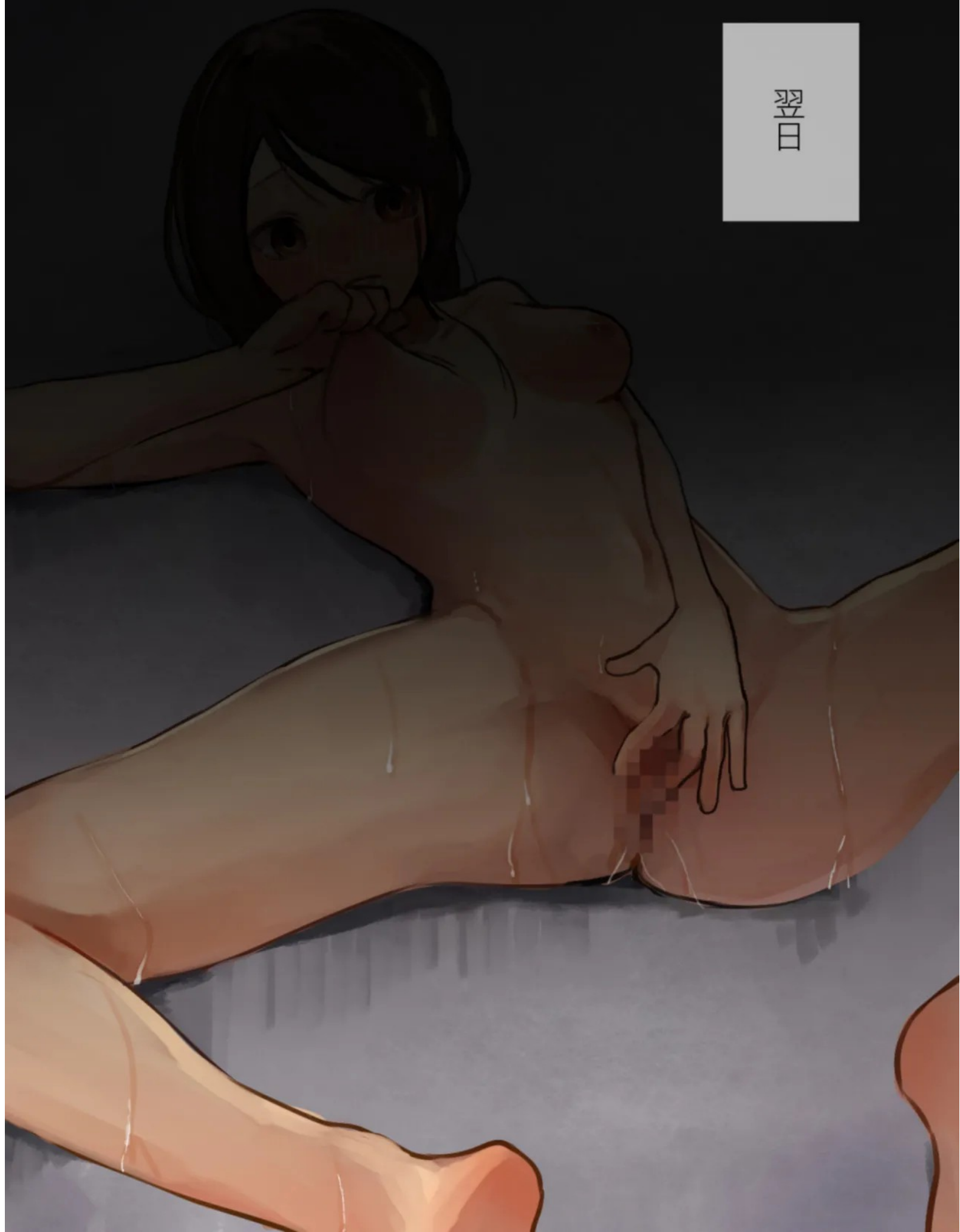
羽純「ほら、リン。ここを持って…
結構力が要るから、一緒にやりましょう？」
リン「うんっ♡」

××「ほっほ！いい眺めだのう。」
啓「い…おねがい、休ませてえっ…!!」



話しかけても反応がなく、痙攣が止まらない啓。
啓を使った「遊び」をすっかり気に入った××氏…
いや、羽純とリンを含む3人は朝までそれを
続けたのだった。

翌日



「検診結果を踏まえた啓への措置について」
性器と肛門が炎症を起こし赤く腫れ上がっている。
オナニーをするようになったため炎症が悪化しない
よう注意・観察。

また、妊娠が発覚したため手術の
スケジュールを確保。
当奴隷は今回が初回の堕胎手術となるため
精神的ショックに留意して取り扱うこと。





——
記錄終了。